



令和7年産（6年播種）



麦類の生育概況 vol.3

埼玉県マスコット
「コバトン」

（令和7年2月6日現在）
埼玉県農業技術研究センター

要 約

- ◎気象概況：1月の平均気温はかなり高く日照時間も多かった。降水量は平年並と公表されたものの実際の降水量は平年の半分であった。
- ◎生育状況：12月から1月第一半旬まで降雨が無かったことから生育は緩慢で、播種が遅れたほ場では分けつの発生が遅れている。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・踏圧(麦踏み)：莖立期までに10日～2週間間隔で2回程度を目標に実施する。2月後半以降の気温上昇による莖立期の早まりに注意する。
 - ・追肥：生育と麦種に合わせた追肥を実施する。
 - ・排水対策：排水機能を保つよう明きょと排水溝の点検補修を行う。
 - ・雑草防除：雑草が生長し始める条件となってきたため注意する。発生したほ場では雑草の種類と葉齢を確認した後、適期に防除を行う。

1 気象の概況

1月の平均気温は、第1、2半旬が平年並、第3、4、6半旬は平年より高く、第5半旬はかなり高く、月平均では平年より1.2℃高かった。降水量は第2半旬が平年より多く、第4、5半旬は平年並であったほかは少なく、月合計では平年比51%となった。日照時間は第5半旬がかなり多く、第6半旬は多かったほかは平年並であり、月合計では平年比114%となった。

2 生育の概況

(1) 所内生育相

ア 小麦（「さとのそら」：11月25日播種）

12月までの生育が遅れていたことに加え、1月上旬の気温が平年並に推移したことから、平年（暖冬で推移した令和2～5年播種の4か年平均）に対し、生育は遅れ、葉位は0.4枚程度少なく、草丈、莖数ともに平年を下回っている。積算気温から予測される莖立期は、平年より4日程度遅いと予想される。

イ 大麦（「ニューサチホゴールデン」：11月25日播種）

12月、1月の平均気温がかなり高かった前年と比較して生育は遅く、葉位は1枚程度少なく、草丈、莖数ともに前年を大きく下回っている。積算気温から予測される莖立期は、前年より12日程度遅いと予想される。

(2) 県内全般

県内の生育は全体に平年並～やや遅い。12月上旬までに播種されたほ場は5割程度で生育は平年並、12月中旬以降に播種されたほ場ではやや遅くなっている。12月上旬までに播種されたほ場では、1月に適度な降雨があったことから生育が進み2回目の麦踏みも行われている。12月中旬以降に播種されたほ場でも、低温と乾燥により出芽までに日数を要したが、2月上旬にはおおむね麦踏みが可能な状況となっている。

3 今後の生育予測

(1) 気象予測

気象庁の1か月予報(2月6日発表)では、平均気温、降水量、日照時間ともほぼ平年並で晴れの日が多いと予報されている。

また、3か月予報(1月21日発表)では、平均気温は3月は高く、4月は平年並か高く、降水量は3月、4月ともほぼ平年並で晴れの日が多いと予報されている。

(2) 生育予測

向こう1か月の平均気温が平年並で晴れの日が多いと予報されていることから土壌が乾燥傾向となり、肥料の溶出や吸収が進まず分けつの発生が少なくなると見込まれる。この状態で3月の高温に遭遇すると、茎数が少ないまま茎立期を迎えることが見込まれ、遅れ穂の発生が懸念される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 麦踏み

耐倒伏性や耐寒性の向上、分けつや根の発生促進を目的に、ローラーに適度なおもりを載せて丁寧に行う。

茎立期までに10日～2週間の間隔を空け、2回程度を目標に必ず実施する。12月中旬以降の播種で、生育が遅れているほ場では3枚目の葉が確認できたら実施するが、過度の麦踏みはかえって生育を阻害するため回数を減らす。

また、今後の急な気温上昇による茎立期の早まりに注意し、生育状況を確認してから行う。

土壌水分が高くローラーに土がつくような場合には麦踏みは行わない。

【参考】さとのそらの場合は偽茎長が7cmに達した頃が茎立期(稈長2cm)にあたる(偽茎長とは平均的な株の地面から最上位の展開葉の葉節(葉耳部分)までの長さ)。

(2) 追肥

小麦は、「さとのそら」の追肥体系では出穂2週間前(平年4月上旬)に窒素成分で3～4kg/10aを目安に施用する。ただし、茎立期後の機械散布が困

難な場合は、莖立期直前（平年3月上中旬）に実施する。「あやひかり」は窒素成分で2kg/10a（平年2月下旬から3月上旬）を施用する。

ビール麦は、前年産のタンパク質含有率分析結果から施用量及び施用時期を調整する。高タンパク質の指摘があった場合は窒素成分で1.5～2kg/10a（平年2月上旬）、低タンパク質の場合は窒素成分で2kg/10a（平年2月下旬）を目安に施用する。

六条大麦は、窒素成分で1.5～2kg/10a（平年2月中下旬）程度施用する。

また、12月中旬以降に播種されて莖数が少ないほ場によっては、追肥の多用は倒伏や遅れ穂の発生につながるため、追肥を見合わせるか5割程度減らして行う。

（3）排水作業

近年まとまった降雨や降雪が多いことから、排水溝の不備は滞水時間が長くなり湿害を招きやすい。麦踏み等で明きょが埋もれていないか、外部の排水路と連結されているか等を確認し、不備があれば速やかに補修する。

（4）雑草防除

雑草は気温が低い時期は小型で暗緑色や赤褐色を呈し、土壌と識別しにくい。また、雑草は草丈があまり伸びずに葉齢が進む。このため、発生始期の見逃しや、葉齢の見誤りから防除適期を過ぎてしまう危険性があるため注意が必要である。注意深く雑草の種類と葉齢を確認し、処理適期を逃さぬよう確実に除草剤散布を行う。

（5）病虫害防除

赤かび病の防除適期は地域や麦種によって異なるが、3月下旬から4月下旬頃である。県内では共同防除を行っている産地が多いので、早めに防除計画を検討し防除体制を整える。

防除薬剤の選定にあたっては、同一薬剤の連用は避け、うどんこ病にも登録のある薬剤を選定し同時防除することが望ましい。

令和6年産麦では、ほ場で赤かび病が多発し、倒伏したほ場では罹病粒から健全粒への感染拡大も見られた。気温が高く曇雨天が続くと予報された場合には、感染防止を目的とした初回散布だけでなく、2～3回防除を行なう必要があることから、病虫害防除所の発表する病虫害発生予報等を参考に防除体制を整えておく。

解析・考察に用いた具体的数字

1. 1月の気象表（熊谷气象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	4.6	4.6	10.6	10.4	-1.0	-0.1	0.0	3.5	38.4	36.0	
2	5.0	4.4	11.3	10.0	-0.2	-0.3	12.5	4.2	34.4	35.7	
3	5.0	4.2	11.9	9.7	-1.0	-0.4	0.0	6.0	38.4	34.6	
4	5.1	4.1	10.5	9.4	0.5	-0.5	3.0	7.0	41.1	33.6	
5	7.6	4.1	13.2	9.5	2.6	-0.5	3.0	7.0	41.3	33.8	
6	5.6	4.2	11.9	9.8	0.1	-0.5	0.0	8.2	53.3	42.8	
平均	5.5	4.3	11.6	9.8	0.2	-0.4	合計	18.5	36.5	246.9	217.0

注.半旬数値は熊谷地方气象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は气象台値。

平年値は 1991～2020 年の气象台値。

2. 生育状況

品種名	調査日	草丈(cm)		茎数(本/株)		葉位(L)		風乾重(g/100本)		風乾歩合(%)	
		本年	平年比 前年比	本年	平年比 前年比	本年	平年差 前年差	本年	平年比 前年比	本年	平年差 前年差
さとのそら	1月6日	8.5	82	1.0	77	2.3	-0.2	3.4	73	27.6	3.3
	1月15日	8.5	81	1.3	63	2.8	-0.4	4.3	66	27.9	4.0
	1月24日	9.1	90	2.3	73	3.6	-0.4	5.8	61	25.0	1.2
ニューサチホゴールド	1月6日	10.2	86	2.0	68	2.5	-0.8	6.3	67	18.3	1.6
	1月15日	10.6	85	3.0	70	3.3	-1.0	8.9	50	19.2	1.7
	1月24日	10.9	83	4.0	56	4.3	-1.0	12.5	44	16.6	0.0

注1.さとのそらは平年値（暖冬であった令和2～5年播種の4か年平均）、ニューサチホゴールドは前年値との比較（以下同様）。

注2.風乾重は100個体当たりグラム、風乾歩合は風乾重/生体重。

注3.平年比、前年比は%。

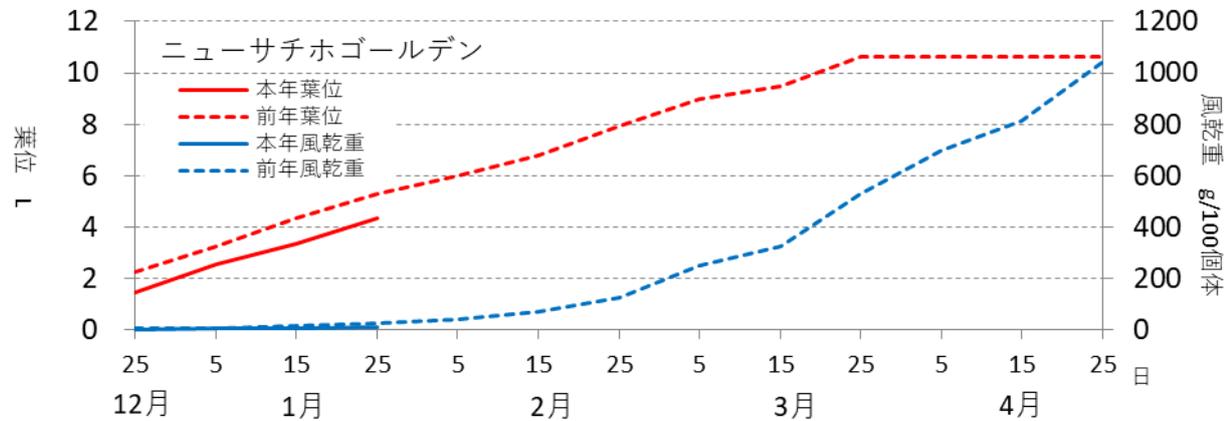
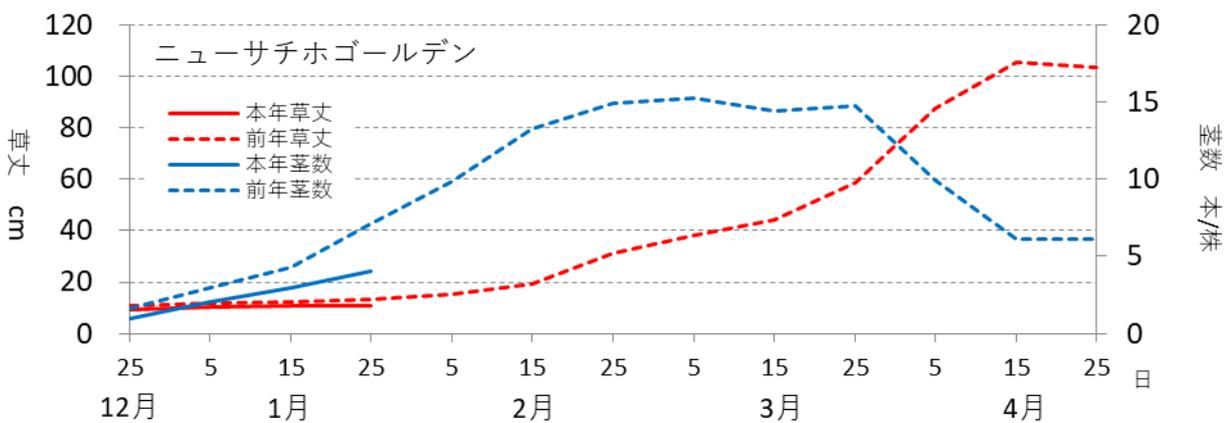
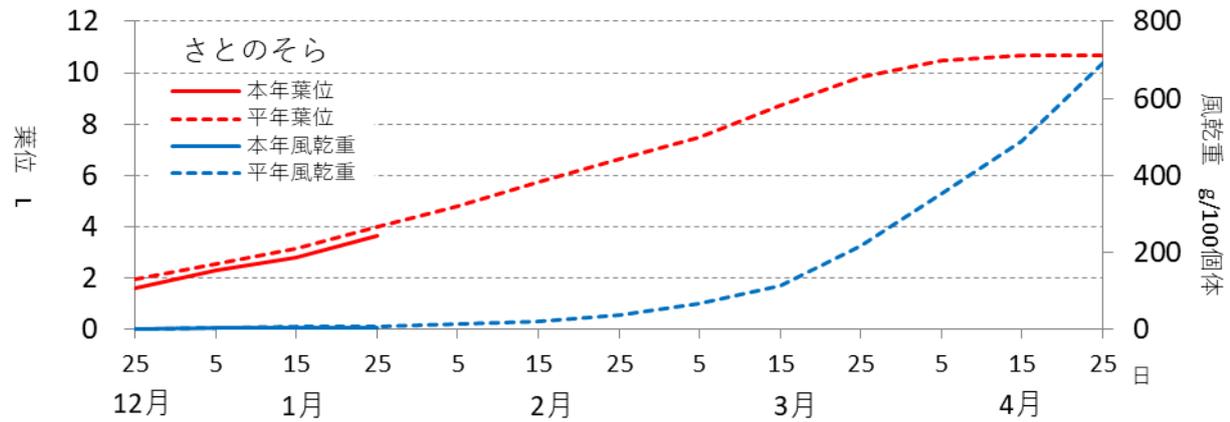
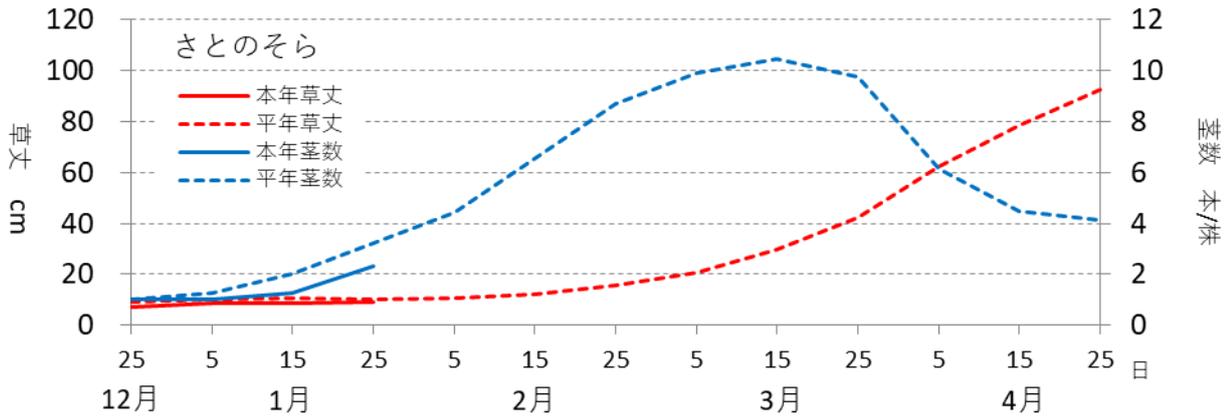
3. 茎立期の予測（11月25日播種）

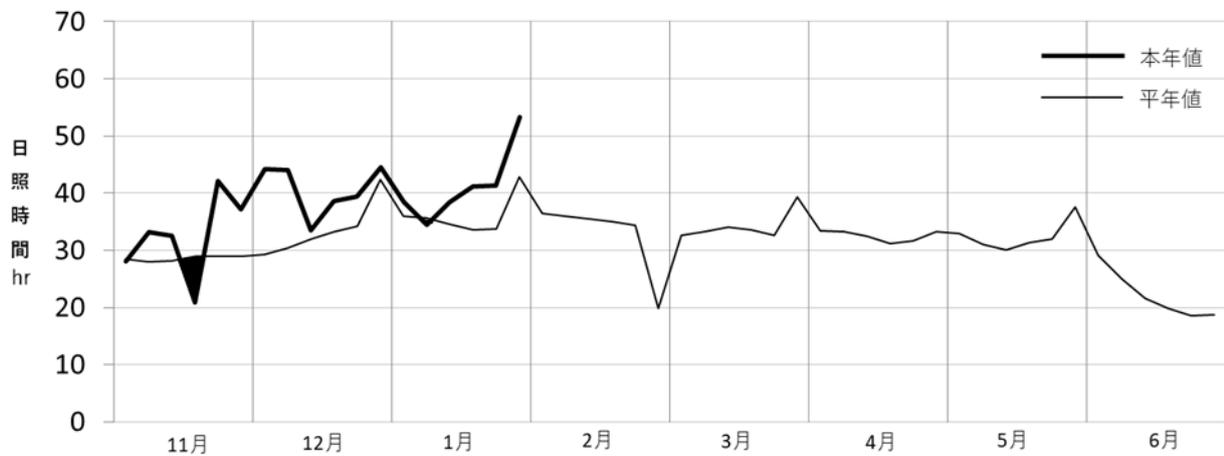
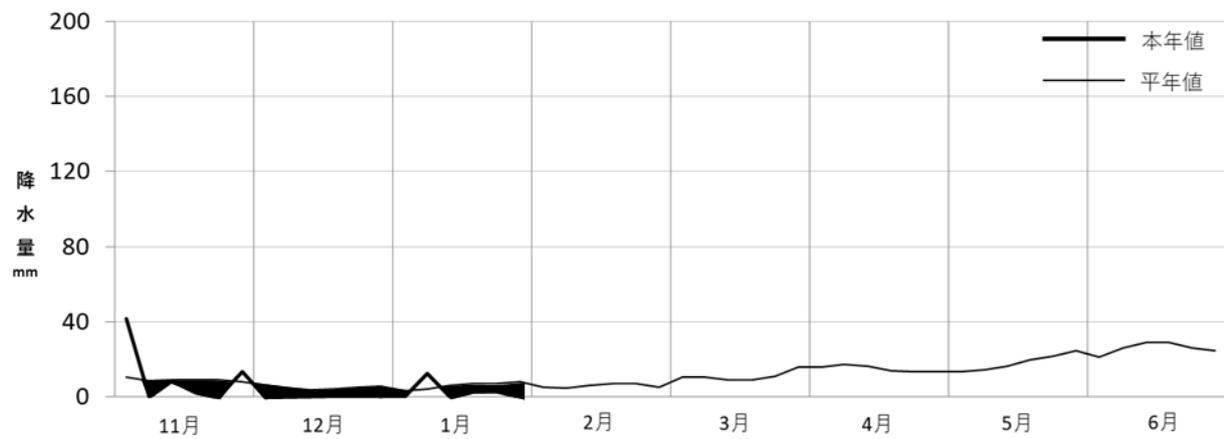
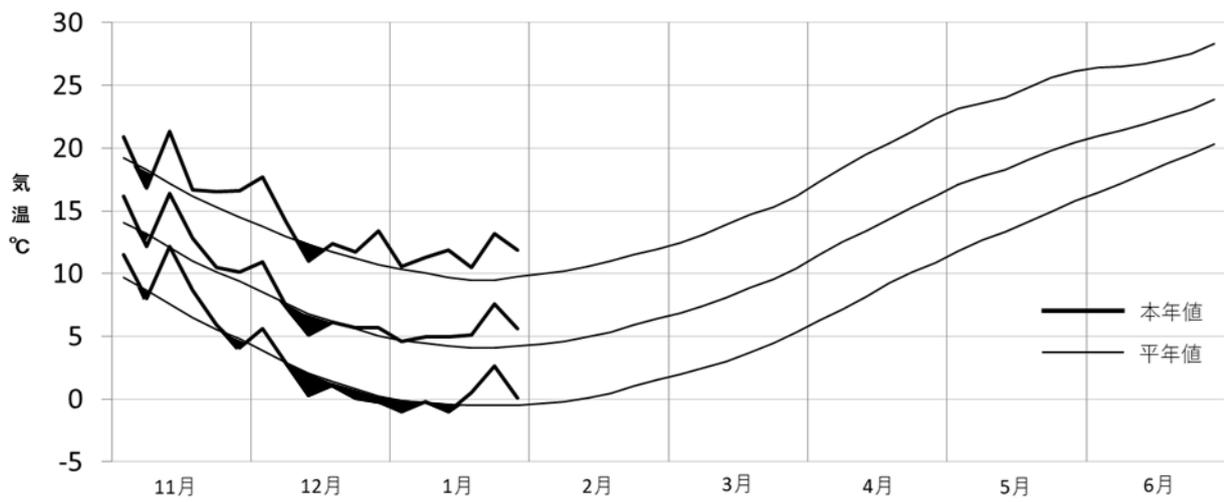
品種名	平年値/前年値		積算気温から予想される 本年の茎立期
	茎立期	播種日からの 積算気温	
さとのそら	3月14日	719	3月18日
ニューサチホゴールド	2月27日	660	3月11日

注1.積算気温は平年値、前年値、本年値とも麦調査年における熊谷地方气象台日平均気温の積算値を使用。

注2.本年の茎立期予想には1月31日までは气象台測定値、2月以降は气象台平年値の日平均気温を使用。

4. 生育経過（11月25日播種）





令和6年播（7年産）冬作期間気象図
 （熊谷地方気象台日別データより作成）